〔島根県立大学松江キャンパス研究紀要　Vol. 60　1～10(2021)〕

保育者の力量形成を促すカリキュラムの検討（Ⅴ）
－３～５歳児保育の指導法を学ぶ視聴覚教材の活用－

小　山　優　子
（保育教育学科）

A Study on Improvement of the Practical Teaching Abilities in Junior College for Nursery and Kindergarten Course (Ⅴ)

Yuko Koyama

キーワード：保育者養成カリキュラム　Curriculum for Nursery and Kindergarten Course
保育者　preschool teacher　　保育実践力　professional ability of practice
教育方法　educational method　　視聴覚教材　information technology

１．はじめに

本稿は，保育士・幼稚園教諭を養成する２年間の保育者養成における保育実践力を高めるための体系的なカリキュラムの構想を目的としたもので，「保育者の力量形成を促すカリキュラムの検討（Ⅰ）（Ⅱ）（Ⅲ）（Ⅳ）」[1)]の継続研究である。（Ⅰ）から（Ⅲ）においては，短大２年間で学生が学ぶべき保育理論と，部分指導案・日案・月週案・年間計画の書き方，保育日誌や子どもの経過記録，要録等の保育記録の書き方などの知識・技能の習得を目的とした教育方法を検討，（Ⅳ）では保育の計画や記録を書く際に必要となる子ども理解や個別理解の深化のための教育方法を検討した。本稿は，（Ⅳ）の子ども理解を深めた上での保育者の指導・援助のあり方を考える教育方法の検討に焦点を当て，幼児・保育実践に関するビデオやDVDなどの視聴覚教材を使い，環境構成の方法や子どもへの関わり方などの指導・援助の教育方法を学ぶ保育者養成におけるカリキュラムの検討を本研究の目的とする。

２．研究方法

保育者の子どもへの指導方法は，保育者志望の学生が一番関心をもって知りたいと思う事項であるが，「子どもにどのように関わればよいのか」といった質問にみられるように，How to的な思考で保育者の指導・援助や教育方法を捉えてしまいがちである。これは子どもの姿や子どもの思いを無視することになるため，子どもたちの実態に合わせた保育者の関わりを発想する必要がある。また指導・援助は子どもたちへの言葉がけだけではなく，保育者の声の大きさや表情，どの場面でどのような状況でそう行動しているのかといった非言語コミュニケーションも大事である。これらの保育者の関わりのよしあしについて，初任者として採用された保育者やベテランの保育者の保育の様子を収めたDVDを視聴することにより，何がどうよくて何が悪いのかを理解することが可能である。本研究では授業で学生にDVDを視聴させ，保育者の子どもへの関わりや環境構成の工夫を解説することで子ども理解を踏まえたよりふさわしい保育者の保育方法の視点を学生が身につけるための保育者の指導・援助方法を深める視聴覚教材の活用方法のあり方を検討する。

1）対象

保育学科の1・2年次の学生各50名を対象とし，2年間における保育の専門科目のカリキュラムや授業内容を分析した。本研究の対象としたのは，平成27～29年度までの3年間分の授業実践である。

2）分析方法

研究方法は，「保育原理」「保育内容総論」「保育者論」「教育課程論」「教育方法の研究」「教育実習指導」の講義の中で幼児期の保育に関するDVDを学生に視聴させ，学生はワークシートに自分で気づいたことをメモにまとめながら視聴し，筆者が解説する。授業の最後には，DVD視聴後の感想や意見を，具体的な場面を挙げながら考察するなどのレポート課題を出し，教育方法上理解してほしい保育者の指導・援助の具体的内容が理解できているかを確認した上で，DVDに見られる3～5歳児保育の教育方法上の学ぶべき視点を分析・考察した。なお保育者の指導・援助の視点は，小川博久『保育援助論』第5～9章[2]を参考に，保育者養成の様々な水準の学生にも，DVD視聴を通して保育者の保育実践の専門的視点を理解・修得できるように大学等の授業に取り入れているところが本研究の訴求点である。

3．保育者の指導・援助の方法のDVDの分類

1）取り扱うDVDの内容と理解する視点

以下のビデオやDVDは授業の中で，3～5歳児保育における保育者の子どもへの関わりの仕方を学ぶために，講義の補助として学生に視聴させたDVDである。また他の教員の授業で視聴するDVDは重複しないように配慮して視聴させている。なお，以下のDVDの内容は3～5歳児保育の教育方法を分析するために，筆者がDVDの関連個所を抜き出し，まとめたものである。

（1）「はじめての幼稚園（21分）」[3]

このDVDは，初めて幼稚園に通い始めた4歳児4月の子どもと新任保育者の関わりを記録したものである。初めてのお弁当の日，保育者は机にお弁当の準備をするよう全体の子どもたちに向けて指示出ししているが，女児が1人自分の弁当が見つけられず，ロッカーの周辺をうろうろしたり保育者のそばに来るが，保育者はその子どもを別の場所に座らせている。全員で「いただきます」をした後に食べ始めるが，仲良しの子ども同士で果物を他児にあげる行動をしている。保育者は「お母さんがせっかく作ってくれたから自分のを食べよう」と言うが，先生の見ていないところで「うちのお母さん，デザートを入れてくれないから」といってお互いお弁当の中身をあげたりもらったりしている。

（2）「3歳児の世界（23分）」[4]

このDVDは，入園当初の3歳児6月の子どもと新任保育者の保育の様子が収録されている。お弁当を食べ終えたシリュウは，ロッカーの前で帰りの準備をし始める。保育者が「シリュウくん，お帰りまだだよ」「リュック背負いたいの」「お絵描きする？」と声をかけるが，シリュウはリュックサックを背負い，保育室を出ていく。シリュウは園の門のところに来て，閉まっている門をよじのぼって園外に出ようとする。保育者がシリュウの後を追い，「ここにいたんだー」「お母さん待ってるの」「ホールでお絵描きしよう」と声をかけ，門を離れないシリュウと一緒に園舎に戻る。

（3）「せんせいだいすき（20分）」[5]

このDVDは，入園1か月後の4歳児の子どもと新任保育者の保育の様子である。トモチカは「先生好き」と担任保育者に抱きついたり，結んでいた保育者の髪の毛のゴムをとったりする。トモチカが園庭で泥遊びをし始めるが，保育者にわざと泥をつけたり追いかけて泥をかけたりする。保育者はキャーキャー言いながら逃げ回り続けているが，最終的に「つかまえた」とトモチカの手を握り，トモチカをだっこしてぐるぐる回ってその場を収めようとする。

（4）「だってやりたいんだもん（20分）」[6]

このDVDは，4歳児6月の子どもと新任保育者の保育の様子が収録されている。保育室でカズとケンタがブロックの取り合いをする。カズはブロックの入っていたカゴでケンタの頭を何度もたたき，ケンタはカズの体にかみつきカズは大泣きする。保育者が「それはダメ」と2人を引き離すが，保育者はカズをひざの上にだっこしたままかみついたケンタにいけないと強く注意する。後になって元々カズがブ

ロックを独り占めしたりケンタをたたいたことが原因だと分かり，保育者はケンタに「先生分かってなくてごめんね」と謝る。

（5）「せんせい，見てて（20分）」[7)]

このDVDは，入園2か月後の4歳児の子どもと新任保育者の保育の様子である。遊戯室で子どもたちが大型積木で遊んでいる。保育者は子どもと一対一で対応したり，手をつないで遊戯室内を移動したり，保育者のひざに子どもを座らせたり，子どもの肩を抱きかかえながら子どものそばにいる。

園庭で子どもたちと保育者でかくれんぼをしている。先生が鬼になり，1.2.3と数えている。先生のまわりに5.6人の子どもたちがくっついて，先生の後を追って子どもたちが移動する状況になっている。

遊びの時間，1人でいることの多いシュンに対し，保育者が製作コーナーから一緒にやろうと誘う。シュンは折紙を折ったり，画用紙で服を作りたいと言うので，保育者が手伝いながら画用紙で服を作る。シュンはその服を着て積木を積んで家を作り始めると，他児がやってきて，一緒に遊び始める。

（6）「新しい生活が始まって（20分）」[8)]

このDVDは，3歳児で初めて幼稚園に通い始めた子どもと新任保育者の5月の様子である。登園時，保護者と別れて泣いているアヤサを保育者はだっこし，気持ちが落ち着くまでアヤサに話しかけたりしながら，靴を脱がせたり身辺整理をしている。

保育室でスポンジ状のソフト積木を使って複数の子どもたちが遊んでいる。ある子どもが「いらない」と言ってソフト積木を投げると，他児もまねをしてみんなでソフト積木を次々に投げ始めるが，保育者はその様子を最初は何も言わずに見守っている。

製作コーナーでは，絵を描いたり物を作る道具や素材が多数準備されている。ハサミは箱に7本刺せるようになっており，片付け時にハサミをその箱に刺し足りないことがないように管理されている。

保育室で女児に絵本を読み始めた保育者のところに，ままごとの仲間に入りにくいので先生が一緒に来てほしいと別の女児が来る。保育者はままごとに入りたい女児に「仲間に入れてって言ってごらん。だめだったらお助けで先生も行ってあげる」と言うが，女児は「ヤダ」と言うので結局，絵本の女児に「戻ってくるから待ってて」と言い，女児とままごとコーナーに行く。

（7）「ふたりだったらチョーさみしそう（24分）」[9)]

このDVDは，入園当初の4歳児6月の子どもと保育者の保育の様子が収録されている。登園後，ヒロシが段ボールを見つけ，男児4人が段ボールに乗って移動したり，廊下で段ボールの中に男児たちが入ったりしている。段ボールが壊れてしまい，ヒロシがセロハンテープで貼って直そうとしているところに，保育者が来て「どうしたの？」と聞く。他児が「破れちゃったんだよね」「多分うまくいかないよ」と言うが，保育者は「やってみないとわからないよ」とヒロシのセロハンテープで直そうとしていることを認める発言をする。

別の日，ヒロシが製作コーナーで発砲スチロールの底を青く塗りつぶし「海」と見立てたことから，保育者はヒロシの了解を得て段ボールを借り，段ボールを池の淵にし，中にブルーシートを敷いて池を作る。磁石でくっつくつりざおと魚を出してくると，それを見た男児たちが先生に教えてもらってつりざおを作り，魚つりをしたり，魚をつったバケツを画用紙で作ったりするが，保育者がいなくなると遊びをやめてしまう。

（8）「友だちと出会う（22分）」[10)]

このDVDは，入園2か月後の4歳児5月の子どもと新任保育者の保育の様子が収録されている。保育室でカメごっこをしていたスミレがおうちを作りたいと言ってきた。ダイスケも積木で家を作っていたのでスミレと一緒に遊ぶとよいと思い，保育者がダイスケに「カメさんのおうちなんだって」と声をかけると，ダイスケが色とりどりのブロックを水に見立ててカメの積木の池に入れ始める。ダイスケはいろいろな色のブロックを池に入れ，スミレはカメのふりをしてエサを食べたり池の中で泳いだりするが，ダイスケはスミレに「武器持ってる？」と聞き，スミレは何も答えずに他の場所に行ってしまう。

（9）「せんせいはトオルくんとつきあってるんだよ（22分）」[11)]

このDVDは，入園当初の4歳児5月の子どもと新

任の男性保育者の保育の様子が収録されている。トオルたちは廊下で昨日保育者としたゴジラごっこを始める。トオルは木製積木を高く積み，保育者も「デストロイヤーが壊すから」と喜んで遊びに参加する。保育者が怪獣のしっぽをつけて「こわしちゃうぞー」とゴジラになりきると，子どもたちが先生に殺到し闘いを挑む。

（10）「ぎゅうにゅうできたよ（22分）」[12)]

このDVDは，入園当初の４歳児５月の子どもと新任保育者の保育の様子が収録されている。ルイがトイレットペーパーの芯にカラーセロファンをつけた望遠鏡を作り，園庭で大事そうに持ち歩きまわっている。保育室で片付けが始まっている時にルイが部屋に戻ってきて，壊れかけている盾をテーブルの隅に隠れてセロテープで直し始める。保育者はルイを見つけ，「壊れちゃった？」と聞くとルイはうなずく。保育者は「お部屋をお片付けしてるから手伝ってくれる？」「お部屋にいっぱいゴミが落ちてるから，いいおめめで見つけて拾ってくれる？」と言うと，ルイは「拾えるよ。このハイパーカラーで」と言い，望遠鏡を見ながら床のゴミを見つける。保育者は「１人10コゴミを拾える？」と言いながら全員に声かけしていると，ルイが「望遠鏡持ってる人は望遠鏡で探してくださーい」と言い，望遠鏡を持っている子もない子も手を丸の形にして両手で眼鏡を作り，床を見ながらゴミを探し始める。

（11）「せんせいせんせい（22分）」[13)]

このDVDは，３歳児の２学期の子どもとベテラン保育者の保育の様子である。登園時，保育室で男児２人がたたきあいのケンカしているところに保育者が来る。保育者は２人の間に入り「どうしたのか教えてくれる？」と聞き，お互いを床に座らせて痛かったほっぺをさすったり，もう１人の話を聞き出したりしてお互いの気持ちを伝えられるようにする。

園庭で男児が足こぎ車に乗って走りまわった後休んだり会話をしている。そこへ保育者とツヨシがやってきて，保育者が「ツヨシくんが赤い車を使いたいんだって」と男児たちに代弁する。黄色い車の男児たちは走り去り，赤い車の男児たちは「あとで貸してあげる」と言い，走り去る。残された保育者はツヨシをひざの上に乗せ，しょげているツヨシと一緒にそばにいる。

足こぎ車を乗り回していた男児たちがテラスのゴザの上で休んでいるところへ，保育者がロールペーパーの芯や空箱，プラスチック容器などの廃材やセロテープ台を持参し，ゴザの上を臨時の製作コーナーにする。男児たちは廃材を組み合わせ，製作し始める。ツヨシも先生と一緒にゴザの上に座り，製作し始め，乳酸菌飲料の容器が筒からポンと出てくるおもちゃを作っているツヨシを保育者が「ツヨシくんの作ったの，おもしろいよ」と他児にツヨシのアイディアをほめ，伝える。

保育室の中で男児たちがソフト積木で船を作り，乗り込んで船を操縦して遊んでいる。保育者も仲間に入り，保育者が船から落ちて溺れるふりをすると，男児たちが保育者を引き上げて助ける。「クジラの口の中に入ってみる」という男児に，「（クジラに）ごっくんされないように気をつけてね」と声をかけたり，複数の男児がクジラの中に入って戦っているふりをしているのを保育者は船の中に乗り込んで仲間になって一緒に遊ぶ。

女児がテラスにチョークで絵を描いていると男児たちがミニカーを持ってやってくる。女児が「ダメ」と言うと，見ていた保育者が女児とぶつからない場所にチョークで線を書き，道路コースを作る。保育者が道路を書くと，１人の男児がそのあとをついて車を動かし，他の男児が次々と「仲間に入れて」とやってくる。保育者が「じゃあね，ここガソリンスタンド。ガソリン入れまーす」「しゅっぱーつ」「後ろからついておいで」と声をかける。道路が一周し，男児たちだけで遊ぶようになると，保育者はその近くに座り，見守っている。

（12）「ここだからねせんせい（22分）」[14)]

このビデオは，５歳児６月の子どもと新任保育者の保育の様子が収録されている。製作コーナーで保育者と子どもたちが廃材でキリンを作っている。そこへ積木で劇場を作っていたシオリが保育者のところに来て，何度も先生に見に来てと言うが，保育者は「動物つくってるからごめん」と言い，男児とキリンを作り続ける。その間，男児がシオリの積木

を次々と持っていってしまい，シオリの積木がなくなってしまう。シオリは「劇場の場所作ってたのに，カズキくんがとったー」と泣きながら保育者に訴える。保育者は「コウちゃん，シオリちゃんに貸してって言った？」と男児たちに言うと，男児たちが積木を返す。シオリは積木で劇場を作り直し，先生が「シオリちゃんが劇を始めるそうです」と呼び込み，シオリは劇を上演し始める。

カイトが家から幼稚園にカタツムリを持ってきたので子どもたちが観察している。保育者は子どもたちに絵本や図鑑を見せ，カタツムリの食べ物や飼い方のヒントを話すと，シオリはキャベツをもらってきて入れ物に入れたり，虫メガネを見つけてきてカタツムリを観察する。その後，クラス全員で海賊のダンスをする。カタツムリが入れ物から這い出てきて，それを見たシオリが「カタツムリが逃げちゃう」と言うが，保育者は「あとでね」と言う。シオリは納得せず，何度も「手を下ろして。逃げちゃうよ」と先生を静止しようとするが，保育者は子どもたちと一緒に踊り続ける。

保育室で子どもたちと先生でジュース屋の準備をしているが，ケンとユウトがレジの取り合いをする。ユウトが保育者に「レジを貸してくれない」と言うと，保育者はユウトに「ケンちゃんが使ってるんじゃない」と言う。ユウトが「使ってない時もダメって言う」と言うと，保育者はケンに「ケンちゃん，これ幼稚園のみんなのだから仲良く使ってね」と言う。

（13）「ちっちゃいけどいい？（22分）」[15]

このDVDは，５歳児の夏休み明け２学期９月の子どもと保育者の保育の様子が収録されている。リアンが保育室の床にビニールテープを貼り，チナと３人の女児でゴロゴロごっこをしようとすると，ショーをしたい男児と，おうちごっこの積木のチカとの３者で場所の取り合いになるが，「ダイちゃん，あの場所が空いてるから使えるよ」と保育者が場所の調整案を提案し，各々の活動ができるようにする。

（14）「年長さんがつくったおばけやしき（23分）」[16]

このDVDは，２学期後半の５歳児とベテラン保育者のグループでのおばけやしきの活動の様子が収録されている。カズトとヒョンジがおばけを作っているが，カズトが誤ってヒョンジのおばけを踏んでしまう。ヒョンジが「なんで壊すんだよー」と言うが，カズトが「ただ間違えてやっちゃったんだよ」と言う。ヒョンジが「ごめんねしろよ」と言うが，カズトは「しろよとか言われると言いたくなくなる」と言うと，ヒョンジが保育者に謝ってくれないと訴える。保育者は「もう１回言ってみたら？」「わざとじゃないのは知ってるんだけど，ごめんねって言ってほしいって」と言うと，カズトがしばらく黙った後，ヒョンジの近くに来て「ごめんね」と言う。ヒョンジが「いいよ」と言うと，保育者がヒョンジに「目を見て言うといいよ」と言い，ヒョンジが再度「いいよ」と言うと，２人はまた一緒におばけを作り始める。

（15）「3年間の保育記録（全4巻）」[17]

このDVDは東京学芸大学附属幼稚園に３歳児で入園したリョウガの卒園までの３年間の保育記録である。４歳児クラスに上がり，担任が変わると，保育者がリョウガを積極的に遊びに誘う中で友達と一緒に遊ぶようになったり，子ども会に向けてワニのお相撲をするためのお面を牛乳パックで作ったり，男児が作ったプロペラで動く牛乳パックの船を水に浮かべて男児たちと一緒に遊んだりする。５歳児になると，遊びの時間に黒ひげレストランごっこをしたり，模造紙に大きな絵を複数のクラスの子どもたちと描いたり，子ども会では友達と同じ探検隊のグッズを作ったり，遊戯室に巧技台と動く大きな羽を組み合わせて巨大な龍を男児たちと一緒に作って探検隊を演じたりする姿が見られる。

（16）「教育実習・幼稚園　保育を学ぶ（58分）」[18]

このビデオは，東京都の私立幼稚園の５歳児19名のクラスでの実習生の様子を撮影したものである。この園は保育室と遊戯室，園庭と遊び場が分散するため，遊びの時間の子どもたちの動きや様子を把握するのが難しいこと，実習生の私がどこに位置していると全体の子どもの様子を見渡せるか，邪魔にならないかを考えながら行動することの大切さを実習生が反省の中で気づいている。

いもほり遠足に行った際，実習生も保育者の役割を担う。バスから降りて移動する時の配慮や安全の確保，バスの中の忘れ物や全員バスから降りたかの

確認など，安全面などをの確認をきちんとしながら，行事が窮屈なものにならないように，楽しい行事になるようにすることの大切さを認識している。

（17）「主体的な遊びで育つ子ども（60分）」[19)]

このDVDは，広島県の私立幼稚園での保育実践のDVDである。8.9月の誕生日会の出し物を職員会議で話し合っている時，先生が本気で運動会をやって子どもが観覧するという案が出される。誕生日会当日，運動会の綱引きや三輪車こぎレース，リレーなどの種目をチームに分かれて行い，子どもたちは大興奮で応援している。その日の午後，子どもたちがタスキをかけて，先生たちのリレーをまねて，エンドレスリレーをして楽しむ。

２）DVDの分類

これらのDVDは，3.4歳児で初めて幼稚園に通い始めた子どもたちのクラスを新任保育者が保育する様子を撮影したものや，経験豊かなベテラン保育者が保育している様子である。以下，新任保育者とベテラン保育者の子どもへの関わり方や保育の仕方の違いの比較から，具体的な教育方法の手だてを示すこととする。

４．3～5歳児保育の実践上の専門性の理解の分析・考察

１）安全面への配慮

保育者として子どもを保育する際，絶対に忘れてはならないのが安全面への配慮であり，子どもにケガを負わせたり重大事故を引き起こさないことは保育の絶対条件である。DVDの（1）「はじめての幼稚園」（以下DVD名は省略）では，お弁当の中身を子どもがあげたりもらったりしているが，食物アレルギーやアナフィラキシーショックの問題，ミニトマトやブドウ，餅などの誤嚥の問題など，食べ物を子ども同士でやりとりすることは安全性の点で危険である。さらに子ども同士で食べ物をあげることに保護者が不満を持ったり，子ども同士でも本当はあげたくなかった，自分だけもらえなかったなどのトラブルの原因になるため，保育者は園での昼食等のルールを子どもたちに伝える必要がある。

遊びの場面では，（6）の製作コーナーではハサミの数が片付け時にきちんと分かるように本数分のハサミが刺せる箱があり，安全にハサミなどを使え管理できるよう配慮されている。また（6）で子どもたちが保育室の中でソフト積木を投げ始めたにも関わらず保育者が止めなかった場面があるが，いくらソフト積木といえども，保育室の床にはブロックやプラレールなどのおもちゃが広げてある上にソフト積木を投げると遊具が壊れたり，滑って危なかったりするので，物を投げないというルールを遊びの中でも保育者が伝えていかないといけない。同様に（5）のシュンの木製積木でのおうちづくりや（9）のゴジラごっこの場面でも，大人の背の高さまで木製積木を積んだり，ゴジラが積木をなぎ倒しているが，積木が子どもの頭や体に当たったら大ケガをするので，一定の高さ以上は積木を積まないこと，ガムテープで固定するなどの配慮が必要である。（16）のいもほりの行事では子どもの人数確認や交通事故などの歩く際への配慮，保育者と実習生の配置などの役割分担を理解した上で保育することが必要である。

２）子どもを受容し共感する役割

3.4歳の入園当初の登園時，子どもたちは保護者と別れて不安になり，泣いている姿がよくみられる。その際，（6）のアヤサのように保育者がだっこしたり話しかけたりして気持ちを落ち着かせることするが子どもの情緒を安定させる重要な関わり方である。また（5）では1人でいることの多いシュンを保育者が遊びに誘い，製作コーナーでシュンのイメージの服を保育者と一緒に作ったりすることや，（11）の赤い車が使いたいツヨシに保育者がつきそい，男児たちに一緒に言いに行くが，拒絶されたツヨシのそばにいて悲しみを共有・共感している行動，ツヨシの作った廃材のおもちゃの工夫した点を他児に伝えてほめている行動，（2）の家に帰りたいと降園準備をしたシリュウの気持ちを理解した上で園生活の流れに従って行動できるように促す行動など，子どものその時々の思いを受け止める保育者の発言や行動が信頼関係の形成に必要不可欠である。

３）子どもと適度な距離感を保つ

保育者が子どもの情緒を安定させるためにだっこしたり手をつなぐことは必要な関わりであるが，

（5）では子どもが不安になっていない時にも保育者が子どもをだっこしたり手をつないだりしている。この行動を子どもとの信頼関係を築くための行動と学生は理解しがちであるが，逆に子どもを保育者に依存させる行動になってしまうため，必要のない時に保育者が子どもに身体接触をとることは控える必要がある。もちろんケンカをしたり気持ちがくじけた時にその気持ちを受け止めるために身体接触をすることはあるが，いつも先生が子どもとベタベタしていると子どもは精神的にも行動面でも自立しなくなるだけでなく，子どもが保育者に依存的な関係になることで片付けや一斉活動などの「～してほしい」と保育者が子どもに指示する場面で保育者の意図や思いが伝わらなくなる原因になる。また（3）ではトモチカが先生に抱きついてきて先生の髪留めをとったり，先生に泥をつけようとするが，保育者は子どもの要求をすべて受け止めるサンドバックではないので，嫌なことややめてほしいことは「やめて」と子どもに伝わるように言うことも必要である。泥をつけられそうになりキャーキャー逃げ回る保育者の姿は，トモチカにとっては嫌がってなくむしろ喜んでいる行動に映っている可能性もあるので，言葉や伝え方，ふるまい方などの保育者の発言・行動を子どもの視点からふり返る必要がある。

4）肯定的な子ども理解

保育者は子どもがなぜそのような行動や発言をするのかを解釈した上で関わるのが基本だが，その際子どもの行動を肯定的に見る力が必要である。（4）のケンカの場面では，相手にかみついたりたたいたりしており，望ましくない攻撃行動と否定的に捉えがちだが，子どもの発達から考えると，自分の思い通りにならない不満を表出したり，言葉で表せないために口でかんだり，たたいたり蹴ったりするのである。（10）のルイについて保育者はいつも片付けをしない子どもと捉えているが，保育者がルイに「片付けてない」と非難するのではなく，壊れたのを直していたと解釈し，隠れてこそこそしているルイの行動を認めた上で，直ったら片付けてねと言っていることが，ルイがこの日望遠鏡を使いながら率先して片付けをしたと思われる。（3）のトモチカの泥つけや（12）のダンスを止めるシオリの様子はネガティブな行動として捉えがちだが，保育者は子どもの発達や思いを理解した上で関わる必要がある。

5）生活習慣の獲得と一斉活動に参加する態度の育成

保育所や幼稚園などの集団保育に入ると，子どもたちは1日の園の生活の流れにそって自分の行動を合わせていかねばならないが，（2）の入園当初のシリュウのようにお弁当を食べ終えると服を着替えて家に帰ろうとするように，最初は子どもは自分の思うままに行動しようとする。そのため保育者は生活の流れを根気強く知らせながら子どもが園生活に慣れるように促す必要がある。（6）のアヤサの登園時の身辺整理や（10）のルイの片づけの様子，（1）のお弁当の準備など，子どもが理解して自主的・自発的に行動できるようになるには時間がかかるが，子ども集団全体に発言したり，個別に声をかけて促したりしながら，子どもたちが主体的に園生活を進めていく力を育てることが重要である。

6）子どもを遊びに引き込む環境構成の工夫

保育では「環境による教育」という考えが基本であるが，これは子どもたちが遊びたくなるような遊具や素材を用意し，子どもが自主的・自発的に遊び始めるように促す教育方法である。（15）では遊びや子ども会に向けての取り組みで，牛乳パックなどの廃材を使ってワニのお面や探検隊グッズ，動く船作りができる環境を用意し，保育者が子どもたちと相談しながら工夫して遊びを作り出している。（12）ではカタツムリのエサや飼い方を絵本や図鑑で調べたり，虫メガネで観察できる環境を準備している。（11）ではゴザで休んでいる男児のところに保育者が臨時の製作コーナーを作ったり，ミニカーを持ってきた男児にチョークで道路を描いたりして新たな遊びに導き入れるきっかけを作っている。子どもたちの動的な遊びのあとに静的な製作遊びができる環境を作ったり，車を動かして遊べる場所を作ったりし，保育者は子どもの動きにふさわしい遊びをタイミングよく提供している。

7）遊びのモデルとなったり遊びをリードする役割

（11）では積木で船ごっこをしている子どもたちの遊びに保育者が参加し，仲間として楽しそうに遊

んでいる様子，（17）では誕生会の出し物として保育者の本気運動会を子どもたちに見せている。保育者が子どもたちの遊びに参加し仲間として遊ぶことで，遊びのモデルとなったり，遊びが活気づくことになる。しかし，新任保育者の（5）のかくれんぼをしている様子や，（9）の保育者がゴジラになっている様子は一見遊びをリードしているようにみえるが，保育者が遊びの中心になりすぎてしまっているため，保育者が遊びから抜けると遊びが成立しなくなったり遊びが消滅する関わり方である。かくれんぼでは，保育者のあとを子どもたちがズラズラとついて回って移動しており，遊び場が固定化しないまま子どもたちを連れまわす結果となっている。ゴジラごっこでは子どもたち対保育者の構図になっており，攻撃をする子どもたちに保育者が遊ばれているような状況になっている。それに対し（11）のチョーク遊びでは，保育者が車の道路を描き，最初は遊びをリードするが，男児たちが次々と参加して保育者の手を借りなくても子どもたちだけで遊びが持続するようになると，保育者は子どもたちの様子を見守る観察者となっているように，遊びでの保育者の役割を状況に応じて変えることが望ましい。

8）友達関係をつないだり遊びを持続させる役割

子どもを遊びに引き込む環境設定は重要だが，魅力的な環境を用意しただけでは子どもの遊びは持続しない。（7）の魚つりでは保育者が池とつりざおを出すと子どもたちが興味を持ち，次々につりざおを作っているが，保育者が魚つり自体には参加していないため，保育者がいなくなると遊びが消滅している。また（8）では，普段一緒に遊んだことのないダイスケとスミレを保育者の言葉がけで一緒に遊ぶようにし向けたが，保育者が仲間に入ったりせずに２人に遊びを任せっきりにしたため，結局遊んでいるようで遊んでいないまま遊びが消滅している。保育者の遊びへの参加が遊びの持続と友達関係をつなぐ場合があることを認識する必要がある。

9）試行錯誤する機会を作る役割

平成29年改訂の幼稚園教育要領第１章に「試行錯誤したり考えたりする幼児期の教育の見方・考え方」に示されたように，子ども自身が考えて試してみることに価値があり，失敗が新たなやり方を考えるきっかけになり試行錯誤が大事であるという考え方がある。（7）のヒロシが壊れた段ボールをセロテープで直そうとしている場面では，保育者が「ガムテープの方がしっかり貼れるよ」といった余計な助言やアドバイスはせず，ヒロシが考えたままを認める発言をしている。このように子どもが失敗して気づくことや試行錯誤をして考える力，工夫する力を高めることの重要性を理解した上で保育者が子どもに関わる必要がある。

10）ケンカの仲裁と複数の子どもを調整する役割

保育中は子どものケンカが日常茶飯事である。（4）では男児がブロックの取り合いでケンカしており，カゴで相手の頭をたたいたり，かみついたりしているので，保育者はケガをしないように止め，お互いの言い分を聞いている。この場合の保育者の，カズをだっこし，ケンタに何で噛んだのかを聞いている保育者の行動は，カズをかばい，ケンタに詰問している状況になっている。また（12）では男児がレジの取り合いをしているが，保育者が「貸してあげて」「仲良くして」と各々の子どもに指示出しをしている状況になっている。それに対しベテラン保育者の仲裁方法は，（11）では両者の真ん中に保育者が位置し，１人の痛かったところをさすってあげたり，１人の言い分を聞いたりし，それぞれの思いを受け止める行動をしている。（14）ではわざとじゃないのは分かってるけど謝ってほしいというお互いの気持ちを受け止め，保育者が発言することで子ども同士が相手の気持ちに改めて気づくように促している。ケンカはどちらにも原因がある場合が多く，両者各々の言い分があるので，その思いを子ども各々が言える場面を作り，中立の立場で各々の思いを保育者が共感的に受け止めるなど，保育者が子ども間の橋渡しをし，子ども間に不満やしこりが残らないようにすることが大事である。

また遊びの場面では子どもたちのグループでの要求がぶつかりあうことがある。（11）では女児がテラスで遊んでいるところに男児が来ると「ダメ」と拒絶されているが，保育者がすかさずテラスの別の場所に男児らの乗物道路コースを作っていたり，

集団と個別理解

10)ケンカの仲裁と複数の子どもの思いや要求を調整する

・保育者が中立の立場をとりながらもお互いの気持ちを受け止め，思いを聞きながら相手の気持ちを伝え，嫌な気持ちや悲しい気持ちが解消できるようにする　・子どもそれぞれの要求を聞き取り，どうすればぶつからないか，解決できるかのヒントを示し，子ども同士が納得するように導く

11)複数の子どもたちの要求に優先順位をつけて応じる

・子どもが同時に保育者と遊びたい，保育者に援助を要求してきた時に，優先順位をつけて子ども相互に提案したり対処する　・子どもそれぞれの気持ちに誠実に答えようとする姿勢を持ちながらも，難しいことや無理なことは子どもに伝える　・保育者がすぐに対応できない時は子どもに見通しを伝えて待つように促す

12)集団と個の関わりを両立する

・設定活動や一斉活動でクラス全体に指示出ししながら，指示の意味が理解できない子どもや流れについていけない子ども，全体から外れる子どもに個別に対処する　・全体を見渡せる位置にいたり，保育者が移動しながら子ども全体の動きや実態を把握すると同時に，子どもグループや個別の子どもに対応するべき優先順位を立てて関わる

【生活や遊びを通して5領域の力を伸ばし，自主的・自発的・主体的に行動できる子どもの育成】

9)子どもが試行錯誤する機会を保障する

・子どもの思いや考えを否定したり，保育者が先回りして助言しすぎない　・うまくいかない経験や失敗を次の改善のヒントと考え，子どもの試行錯誤の過程を大事にする

遊びの援助

6)子どもを遊びに引き込む環境構成を工夫する

・子どもが遊びたくなるように遊具や道具，素材を準備し，遊び環境を作る　・絵本や図鑑，虫メガネなど，動植物の飼育・栽培や観察できる環境を用意する　・子どもの遊び状況に応じて，廃材や遊具を持ち込むことで遊びの展開のヒントを与えたり，新たな遊び方を提案する

7)遊びのモデルとなったり遊びをリードする

・子どもが遊びたくなるように，保育者も仲間になり遊びをリードする　・保育者が遊びのモデルとなり，多様な遊び方を発言や行動で表す　・保育者が遊びに参加することで遊びを魅力的にする

8)友達関係をつないだり遊びを持続させる

・保育者が遊びに参加することで，子ども同士の友達関係を形成したりつなぐ　・保育者の遊びへの参加により遊びが安定化し，遊びをやめるのを防いだり，遊びを持続させる

生活の指導

5)生活習慣の獲得を促し，一斉活動に参加する態度を育成する

・登園・降園時の身辺整理ができる　・給食やお弁当を準備し，楽しく食べる　・自分のことは自分で行う　・活動の準備や片付けができる　・生活習慣が身につき自立する　・1日の園生活の流れにそって行動する　・クラス全員やグループで一緒に活動する　・先生や他児に合わせる　・保育者の指示に従う

子どもとの信頼関係の形成

4)肯定的に子どもを理解する

・子どもの攻撃行動（かむ，たたく，ける，相手を悪く言う）などのネガティブな行動を肯定的に理解する　・片付けない理由を踏まえた上で片付けを促す

2)子どもを受容・共感する

・子どもの気持ち（保護者と別れて悲しい，遊具の取り合い，自分の思い通りにならない）を受容しながら身体接触をする（だっこする，手をつなぐ，話しかける，そばにいる）　・子どもの作った作品や素敵な点，工夫した点を認める（ほめる）　・子どもの思いに寄りそい，共感する

3)子どもと適度な距離感を保つ

・子どもの情緒が安定している時に保育者が子どもに身体接触をしない　・保育者が嫌なこと，してほしくないことは子どもにきちんと伝える

安全

1)安全面に配慮する

・危険な道具（はさみ，カッター，キリ，ノコギリなど）を紛失しないように管理し，安全に使う　・積木を高く積まない，積木をガムテープなどで固定する　・積木や遊具を投げない　・散歩や行事の際の道路の移動など交通安全に注意する　・活動や行事での人数確認・安全確認を怠らない

図1．DVDに見られる3～5歳児保育の教育方法と保育者の指導・援助のための視点

（13）の保育室内での遊び場所の取り合いの場面では「ここの場所が空いてるよ」と伝え，保育者が子どもたち同士の遊び場所がぶつからないように調整する役割を担っている。

11）複数の子どもたちの要求に応える役割

子どもたちが保育者に対して同時に様々な要求をするが，（12）ではキリンを製作している子どもの援助をする保育者に対し，シオリが劇を見てほしいと保育者に言いに来る。保育者は2つの要求に同時に応えることができないため，シオリに「ごめんね」と言っているが，できないことはできないと子どもに伝えることは大切である。子どもに期待だけさせてできなかったり，「いいよ」と安易に言って約束が守れなかった方が子どもは保育者が嘘をついたと感じ信頼を損ねることになるので，保育者の今の状況や考えを伝えることは必要である。ただし，保育者がずっと製作コーナーにいる必要があったのか，一瞬でもシオリの劇を見に行ったり，シオリにいつ見にいけるかという見通しを伝えるだけでもシオリは納得して劇の練習をして待っていたとも考えられる。（6）の絵本を読んでほしい女児とままごとの仲間入りに保育者についてきてほしい女児の場面では，保育者は後者の女児に「まずは1人で入れてって言ってごらん」などと行動のヒントを伝えているが，できなかったため，前者の子に「少し待ってて」と言って後者を優先する行動をとっている。このように保育者は常に優先順位をつけて行動する判断力が求められるが，要求してきた子どもたちが各々納得する形で保育者が子どもたちと関わる必要がある。

12）集団と個の関わりの両立

生活の場面や設定活動・一斉活動の中では，保育者がクラス全体の子どもたちやグループなどの子ど

も集団に指示を出したり動かしたりするなどのリーダーシップをとる役割があるが，保育者の一斉の指示出しが理解できない子どもや全体の流れについていけない子ども，集団から外れる子どもが必ず出るため，個別の対応も同時に行わなければならない。（1）ではお弁当が見つからずどうしてよいか分からない女児に対し，保育者は全体の子どもたちの流れに合わせるようにもっと早く女児に個別対応すべきであった。（16）の実習生も，遊び場があちこちに点在する中でどこにいてどう動くと全体が把握しやすいのか，保育室の中においてもどこにいると子どもの動きが見渡せるのか，子どもたちの邪魔にならないのかという気づきを実習日誌に書いている。（10）の片付け場面では，保育者は保育室にいる子どもたちに「1人10個ゴミを拾おう」と指示出しをしながら，片付けていないルイや他の子どもに個別に声をかけているように，全体と個を同時に動かし両立させながら対応する力が保育者には求められる。

5．おわりに

子どもと保育のDVD視聴を通して，環境構成の方法や子どもへの関わり方などの教育方法に焦点を当てて分析した。3～5歳児の保育で配慮すべき点を4の1）～12）に挙げたが，これらを図式化したものが図1である。これは保育者が保育を行う際の前提となる安全面への配慮から，子どもとの信頼関係の形成のための視点，子どもが生活する力を身につけたり遊びを進める力を育成するための配慮点，集団を意識した個別対応の方法を通して，子どもたちに5領域の力と主体性を育てる指導・援助の方法をまとめたものである。DVD視聴後の学生の最終レポートの内容を見ると，保育者の発言や行動には様々な意図や願いが込められていることに気づいたり，子どもとの信頼関係の形成のための関わり方や集団と個別の両立の視点など，保育者の指導・援助の具体的方法が分かったと書いた学生が多数いた。このように学生に保育者の子どもへの関わりの実際を見せながら解説していくことで，“お姉さん先生”と呼ばれる素人的関わりではなく，保育者としての専門的な保育実践の視点を理解することができるようになる。このことが，学生が実習に出た際に保育者としての様々な教育方法を試してみることができ，保育者の専門的スキルを体得していくことで保育技術の向上につながると思われる。

引用文献

1）小山優子「保育者の力量形成を促すカリキュラムの検討（Ⅰ）」島根県立大学短期大学部松江キャンパス研究紀要第52号，2014年,「保育者の力量形成を促すカリキュラムの検討（Ⅱ）」同上第53号，2015年,「保育者の力量形成を促すカリキュラムの検討（Ⅲ）」同上第58号，2019年,「保育者の力量形成を促すカリキュラムの検討（Ⅳ）」島根県立大学松江キャンパス研究紀要第59号，2020年
2）小川博久『保育援助論』萌文書林，2000年
3）「はじめての幼稚園」岩波映像（DVD）
4）「3歳児の世界」岩波映像（DVD）
5）「せんせいだいすき」岩波映像（DVD）
6）「だってやりたいんだもん」岩波映像（DVD）
7）「せんせい，見てて」岩波映像（DVD）
8）「新しい生活が始まって」岩波映像（DVD）
9）「ふたりだったらチョーさみしそう」岩波映像
10）「友だちと出会う」岩波映像（DVD）
11）「せんせいはトオルくんとつきあってるんだよ」岩波映像（DVD）
12）「ぎゅうにゅうできたよ」岩波映像（DVD）
13）「せんせいせんせい」岩波映像（DVD）
14）「ここだからねせんせい」岩波映像
15）「ちっちゃいけどいい？」岩波映像, 2001（DVD）
16）「年長さんがつくったおばけやしき」岩波映像
17）「3年間の保育記録①②③④」岩波映像（DVD）
18）メディア教育開発センター「教育実習・幼稚園　保育を学ぶ」放送大学教育振興会，1999年（VHS）
19）大豆生田啓友・中坪史典「映像でみる主体的な遊びで育つ子ども」エイデル研究所，2016（DVD）

（受稿 2020年9月30日，受理 2020年11月4日）